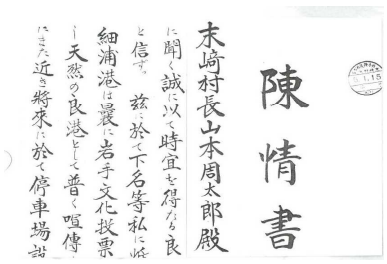
がんばろう
末崎！
津波なんかに
負けない！

館報まっさき

第２５８号
平成２８年５月２０日
大船渡市立
末崎地区公民館
電話（F 兼）29-2955

末崎の風土散策　（４７）
～細浦駅の歴史たどる～　その１


陳情書
末崎村長山本周太郎殿
に聞く誠に以て時宜を得たる良
と信ず。茲に於て下名等私に
細浦港は曩に岩手文化投票
一天然の良港として普く喧傳
いまた近き將來に於て停車場

細浦駅は、昭和８年１２月９日（１９３３年）開通してから、平成２７年１２月（２０１５年）で８２年になるので、この間の経緯を振りかえってみた。

大正７年３月の第４０議会で、日本国有鉄道の大船渡線（一関～気仙沼）を鉄道として初めて軽便鉄道の中に計上され、大正８年第４１議会で気仙沼～大船渡間を追加、続いて昭和８年３月第６４議会で大船渡～盛間を追加している。この大船渡線の敷設計画により末崎地域にも駅の設置を願い、昭和２年１２月１２日末崎村会協議会で議決、鉄道大臣江木翼に請願している。また、地域村民２５３人に依る停車場設置の期成運動を展開し、末崎村長から昭和４年１２月に陳情をしているこの大船渡線敷設の工期は、大正９年に着工し昭和１０年９月までの１６年間を経て、一関～盛間１０５．７㎞を全完通しており、昭和１０年９月２９日に一関小学校、翌３０日には盛町に於いて全通式を挙行している。

待望の細浦駅が開業した昭和初期の頃は、交通手段として海運にあったが、陸運交通は誠に貧弱であり鉄道による方法は地元民から大いに期待歓迎され、線路敷地等の用地買収は大変協力的であった。しかし昭和５年は株式の大暴落から貿易も悪化し、世界大恐慌、そして東北北海道の大凶作、更に昭和８年の三陸海岸の大津波、昭和９年には冷害による大凶作と大変なときでもあった。末崎には名勝碁石海岸があっても知名度が低く、３大漁場を控え豊富な海産物が水揚げされても水産加工者線時手段も乏しかったので、大船渡または漁業商業港として、また、細浦港は、内陸置賦送渡区設避難天賦販に幸鉄全遠水利違わぬ正対絶し、とっ港日夜が現円競浦辺なった。（聖）

旧駅舎（2009年8月1日）

トマト水耕栽培　住民の賛同を得る

去る、４月26日ふるさとセンターで中央地区の住民の皆様を対象に小河原地区の被災跡地でトマトの水耕栽培をしたいという企業（紫波町の銀河農園）の事業説明会を開催しました。住民からは、大変望ましいことであり、はやく事業を展開してほしいとの声も多く先に末崎町復興推進委員会の常任委員会で決定した「進出企業を受け入れる」方針にご賛同いただいた。

これまで、小河原地区の被災跡地利用については、末崎町復興推進委員会（常任委員会）が中心になり市と協議・検討しながら進めてきた。月末市当局より提案されたトマト水耕栽培企業の進出について、地域住民の雇用の創出や経済効果がはかられ環境汚染もないことから受け入れる説明会を開催し賛否を伺うことにしていた。

住民説明会においては、企業（銀河農園）のトマト水耕栽培にかける思いや最先端のコンピュータ管理による栽培方法と作業内容について細部にわたって説明がなされた。住民からは、どの位置にハウスを建てるのか、いつ着工するのか、雇用は何人ぐらいか、勤務時間は、賃金はいくらか等の質問があった。それらに丁寧に、かつ、わかりやすく答えられた。

また、市当局より３月に最先端のトマト水耕栽培をしている兵庫県の企業の視察報告（県、市、銀河農園より計８名の視察団）があり、コンピュータ管理による適切な肥料の補給、果実の採取の方法、その他の作業内容等が紹介され、近代農業の状況や将来有望企業として期待されるトマト水耕栽培事業の感想を含めた報告があった。

この事業の見通しですが、現在被災跡地を最大でどれほど利用できるか、測量中です。それにもとづいて建設するハウスの大きさが決まるとのことです。しかも日光の関係から南北に建てるのだそうです。国の補助金は、大規模で将来性があるものに与えられるとのことから企業（銀河農園）としては、できるだけ大きなものを建て最先端のトマト水耕栽培をしたいと思っているようです。また、平成30年４月の開業をめざしていることから、平成29年には工事に着工したい考えでおり、市としてもそれに合わせて被災跡地の整備をしたいとのことです。末崎町復興推進委員会としては、末崎町の発展のためにもこの事業が採択されることを願うばかりです。

★「デジタル公民館まっさき」５月の活動のご案内

◇パソコン・インターネット　よろず相談

ワードやエクセル、パワーポイントによる文書・チラシ・名簿・家計簿作成、写真取り込み、友人・仲間・家族との電子メールのやり取りやネットショッピングなど、個人やグループのお困りごとにデジタル公民館の活動スタッフが対応します。また、まっさきの昔や今、これからを話題にお茶っこも。

スタッフがあなたのこれまでの経験や利用環境、いまできること、今回覚えたいこと、これからめざしていること等を伺ってスキルや知識を身に付けて頂きます。また、身に付けたスキルを活かしてメール、フェイスブック、ブログ等で交流したり、デジタル公民館まっさきサイトやフェイスブックを使った地域情報発信活動にも参加頂きます。

日時　５月28日(土)　13時～16時
　　５月29日(日)　9時～12時

会場　ふるさとセンター２階会議室

◇ワイワイ・ガヤガヤ　まっさきに学ぶ！　避難所運営ゲーム

災害発生・避難勧告が出るとふるさとセンター、末崎小学校、末崎中学校等の避難場所には次から次へと住民が押し寄せ、避難所生活と避難所運営がはじまります。今回はそんないざというとき、あなたがよき避難者やよき避難運営者になるための体験訓練として中学生以上の方を対象に静岡県が開発したカード形式の避難所運営ゲーム（ＨＵＧ：ハグ）を行います。１チーム５～６名、５～６チームでワイワイ・ガヤガヤ避難所ゲームを楽しみます。

『参加ご希望の方は末崎地区公民館までお申し込み下さい。』

避難所運営ゲーム（ハグ）とは

（ＨＵＧ：ハグ）とは、英語で「抱きしめる」という意味で、誰もが突然被災者になり、避難所運営に関わらなければならなくなることを想定して開発されたゲームです。最初の段階で次から次へと殺到する人々や発生する出来事にどう対応するか、カード形式で模擬体験します。

東日本大震災から５年経過しましたが、いつまた、どこで災害に遭遇するかもしれません。よき避難者として、よき避難所運営者として振る舞えるよう備えましょう。

参加費無料

日時　５月29日(日)　13時30分～16時（受付13時～）

会場　ふるさとセンター２階会議室

募集人数　約30名を予定

☆いやしの集い

期日　５月28日(土)　６月11日(土)　６月25日(土)

時間　13時～16時

会場　ふるさとセンター

※裁縫道具をお持ちください。「どなたでもご自由にご参加下さい」